



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:0593-31-1670
 ☎:0593-32-0733

掲示板法話

念仏は 閉ざされた垣根を 超える エネルギーになる



チベットでの人権弾圧に抗議する人たちが北京オリンピックの聖火リレー反対運動を世界各地で繰り広げていました。それをテレビのニュースで見た人が「人権侵害がよいことだとは思わないが、よその国の問題になぜあんなに頑張らねばならないのか？私はそんな気になれないね」とつぶやきました。

昨年の秋、伊勢市で開催された国際宗教フォーラムのフィナーレで、私もダライラマ法王と共に壇上で「ふるさと」を歌った一人でしたので、チベットの動向が気になってはいましたが、それに対して否定も肯定もできず、「それが我々日本人の閉鎖性なんだよね」という曖昧な話しか出来ない私自身、恥ずかしいと思うばかりです。しかし、日本人の中にもすごい人がいることを新聞で知りました。

その人は今から十七年前カンボジアで選挙監視のボランティアとして活動中に銃撃されて亡くなった当時二十五歳の一人息子・厚仁さんのお父さんで、中田武仁という方です。中田さんは一人息子の無念の死を契機に、「息子が成し遂げられなかった人生を生きる義務

がある」と決意して、商社マンをやめて無報酬の国連ボランティア名誉大使となり、十五年間で五十カ国の紛争地を訪れ世界各地のボランティアに支援活動を続けられたということです。中田さんは「多くのボランティアの中に厚仁の姿を見ることが出来た。『僕はボランティアの中にいるよ』という息子の言葉が聞こえてくるようだった」と語りつつ、「一人息子を失ったが多くの息子を持つことができたことを誇りに思う」とお話しされました。

よく「死んだ子供の年を数える」という親の話を聞きますが、わが子・よその子という閉ざされた垣根を越えた、利他の願いに生きる姿に感銘を覚えます人はそれぞれの立場や経験の積み重ねによって視野や考え方が広がり、深まりますので、中田さんのような立派な生き方が誰にでもできることではありません。しかし、大したことのないわが身を振り返りつつ、立派な人に称賛の言葉を送り、高い志を持つよう学ぶ努力をすることはできます。

小学生の登下校の安全補導をなさる方、早朝暗い頃からゴミ拾いやお掃除

をなさる方など、目立たなくても精一杯地域社会のために尽力される人がおられます。思わずその後姿に手を合わせずにおれません。

如来様の本願力によって金剛の信心を得た人はこの世の生活のうえに十種の利益を得ると親鸞聖人はお示しになり、その一つとして、常に如来様の大悲を人に伝えることができるという現世の利益を挙げておられます。

「社会に何かを願うだけでなく、自分にはどんな願いがかけられているか」を自ら問い続けたいと思います。

「世の中安穏なれ」という親鸞さまのお言葉から、小さな殻や垣根を乗り越えるエネルギ―を汲み取らなければなりません。

5月25日(日)午前10時:総会 午後1時:『公開法座』

講師:大島信隆先生(岸和田)

※総会の出欠表(昼食準備のため)行事さんが集めます
 ※午後の公開法座にはどうぞ皆さん多数お参り下さい!

☆三重組コーラス

※陽光苑慰問5/8(木)10時半誰でもOK。童謡懐メロ

※5月20日(火)午後1時:三重組仏婦総会

(菰野:法林寺様)音楽法要(さんだんの歌)『娘達よ』『聖夜』『風に向かって』衣装は白ブラウス、黒ロング、黄色楽譜紙、数珠:午後12時半車小杉出発

※5月最終土曜日夜の小杉練習は無し(念仏奉仕団のため)

※6月9日(月)午後1時:合同練習(西勝寺)別院音楽祭の特別練習、※6月28日(土)夜の小杉練習は有り

※7月2日(水)名古屋別院音楽祭参加:バス8時半小杉、8時50分桜、コーラス用衣装、黄楽譜紙、数珠、

◇キッズサンガ:5月17日(土)4時お経、紙芝居、ゲーム等

◇一縁会テレホン法話11冊目の本『逃げたらあかん』発売中
 059-354-1454へお電話を。3分間の法話が流れます

◇別院仏婦総会:5月26日(月)午前・午後



H20. 4. 19初参式10名の子供と家族 in 善正寺

平成20. 4. 19「初参式」10名の子供と家族
 地域の人々に見守られ小さな手を合わせず子供達

坊守スケッチ

立ち止まってこそ真実が見える



朝7時、私は散歩で標高六十七メートルの垂坂山の展望台を訪れます。四日市市街や伊勢湾が見渡せる場所です。腰痛予防体操やストレッチをしながら、三本の電車を見送るのが私の日課です。朝早く出かける人で満員の電車に「今朝もご苦労さま。元氣に行つてらっしゃい。どうかご無事でお帰りを」とエールを送ります。電車の中の人はず一人、私の存在など知るはずありませんが、電車が予定時刻より遅れて発車した時など、後続の電車がノロノロ運転している様子が、展望台から手に取るように分かります。

おそらく阿弥陀様も下界にいる私達の行動を「今日は元氣がないなあ」とか「やけに嬉しそうだなあ」など逐一ご覧になっているのではないのでしょうか？芥川龍之介の『くもの糸』の出てくるお釈迦様のように・・・。

後日電車に乗って、車窓から毎朝眺める展望台を探してみました。大体の方向は見当がついたので、目を凝らして探してみましたが、一瞬の出来事で確認することはできませんでした。

この結果分かったことは「静止しているものから動いているものを確認することは易しいが、逆に動いているものから静止しているものを確認するのは難しい」ということです。一寸哲学めいた話になってきましたが、分

かり易い例を挙げてみましょう。

私の知り合いのお婆ちゃん、若くして突然夫に先立たれました。その後必死に働いて三人の子供を立派に育てました。子供達も働く母親の背中を見て育ち、その苦勞を分担するため家事を協力、近所も親戚も応援しました。仕事はどんなに忙しくても、お寺参りは欠かさず、本堂の最前列がお婆ちゃんの指定席。お婆ちゃんの口から、他人の悪口や愚痴話を聞いたことがありません。現在は足腰が弱られました。それでも寝たきりの友達を見舞うという優しさも忘れません。「皆さんのおかげで今までやってこられた。決してわが力ではない。それを教えて下さったのが仏様」働き通しのお婆ちゃんのお寺参りは、時間をやりくりして立ち止ってわが心を仏様の前に映し出す貴重な時間だったそうです。

忙しい現代人は、他人より早く多く獲得する競争社会にいます。まるでエンジン車を空吹かしして、スピードを競う車のように。周囲の景色を味わう暇もありません。走り続けてばかりでは車も早く痛みます。時には車から降りて爽やかな風に吹かれて気分転換しましょう。それが無事故の条件です。人生でも走り続けるばかりではなく、立ち止まる時間を持つことは必要です。今まで気付かなかった真実を目

覚める絶好の機会です。車も点検してこそ安全運転できるように、私達も毎日丁寧に生きてこそ、安心の境地が得られる人生になるのだと思います。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆九年振り 十三日講 菩提所の満堂に座し 聴くこ消息

☆百本を 百円とつい 早合点

☆百均癖が 葱苗買うに

☆沿線に 染井吉野が 咲きそむる

ワンマンカーで 降りし駅にも

四日市市 萩弘道

☆慈悲深き 親鸞様を 感じつつ

悦び歌う 恩徳讃

「法然と親鸞」の公演を見て皆に分け隔てなく溶け合い、苦楽を共に生活されたことを知り、お二人が身近に感じられました。自らを深めつつ、慈悲に行きぬかれた強い愛のエネルギーを感じました。

釈迦(故人・前善正寺住職)

「わたしや籠耳」

聞いて忘れて 忘れて聞いて

わたしや籠耳 お慈悲の水に

今日も一日 さぶりとつかり

「一恩喜ぶ 幸せ者よ」

キッスサンガ(杉の子合唱団)

◇五月十七日(土) 午後四時より

子供向けのお経、ゲーム、お菓子等

三重組コーラス♪

※五月八日(木) 午前十時半 陽光苑

※五月二十日(火) 午後一時 法林寺

「三重組仏壇總會」さんだんの歌・「娘達よ」聖夜「風に向かって」曲披露

コーラス用服、黄色楽譜紙、数珠

5月末の土曜夜小杉練習はありません

※六月九日(月) 午後一時半 西勝寺

合同練習(別院音楽祭に向けて)

※六月二十八日(土) 夜小杉練習あり

※七月二日(水) 名古屋別院音楽祭

お悔やみ申し上げます☆

★舞鶴町徳橋(みゆきヶ丘)八十四歳・三月二十八日 合掌

★瀬野志江(西伊富町)八十九歳・四月三日 合掌

★有賀妙子(東坂部)七十六歳・四月十三日 合掌

★カンバ有難う☆

匿名様三名よりお志や切手を頂戴しました。

★ホットユース☆

☆四月十九日第十八回三全仏婦主催

「初参式」に十名(男七名・女三名)の赤ちゃん、幼児がご参加。仏の子として皆の愛情に包まれ健やかに育つて下さい。

★編集子より ☆

「善正寺だより」第一七三号をお届けします。◇新緑の好季節ですが娑婆世界は

混乱、我々の心中も穏やかではありません。◇北京五輪とテット問題等、我

らは「虫の眼」の持ち主であつても「鳥の眼」の視野に心を注いで生きたい。合掌

新緑に囲まれた池をカモがスイスイと仲良く泳いでいます。ぼんやり眺めていると水面下では足をバタつかせ、目はエサを求めて探し回っています。ただ見れば、何の苦もなき水鳥の足にひまなきわが思ひかなしと水戸黄門様の歌のまうに水鳥の世界も生きる為には真剣です。人の世界も同じようなもの。一見幸せに見える家族でも他人には測りしれない苦勞はつきもの。弱者をばいばい逃がしたりしたら水鳥に笑われてしまいそうです。ここを最近長男が書道を習い始めました。大学の帰りにちよと寄るだけでお習字の域を出ませんが「愚公移山」という四字熟語を書いて来ました。「どういふ意味か」と尋ねると「愚直一徹な人でもたゆまぬ努力を続けると大きな山をも動かすことができる」といふ意味に、以前紹介したジャンジオ著「木を植えた男」もよく似た話。毎日100本ずつ木を植え砂漠を森林に再生していく話。世の中を動かすのは権力や富の力や声高な主張ではなく、こうした無私無欲な人の絶やまぬ努力の結晶かもしれない。私にできる未来への種蒔きは何かだろうか。夕方5時の鐘つきの前には子供達がお寺に集って来ます。卓球をする子、境内でドッジボールする子、黒板のお絵かき等々。お寺は無料の学童保育所のようなです。玄関チャイムが鳴る度に私は子供の相手。時にはケンカの仲裁したり遊びのルールを教えたり大忙し。でも子供と交わる中に私の喜びもあります。それが私の仕事でもあるような気がする。昨今です。5/25(日)午前統会・午後公開法座(大富信隆先生)皆様の二参考詣お待ち申し上げます。合掌

平成三十年五月

善正寺坊守拜